

課題5．子どもの保健と医療の連携システム

地域保健医療連携支援研修 研修会実績と評価(1)

実施日時	平成15年6月27日(金)午後1時30分から午後5時	
講師	当センター アレルギー科医師 伊藤浩明、森下雅史	
講演主題	乳幼児健診で相談を受けたときに 乳幼児のアレルギー疾患 1．アトピー性皮膚炎 2．食物アレルギー	
参加者数	保健師 53名	
講演会	講演内容の要旨	
	<p>1．アトピー性皮膚炎</p> <p>アトピー性皮膚炎とは アトピー性皮膚炎の成り立ち アトピー性皮膚炎の診断 アトピー性皮膚炎の治療目標・治療の基本的な方針 スキンケアの基本 薬物療法 不適切な治療</p> <p>2．食物アレルギー</p> <p>アレルギー反応・アナフィラキシーショック 食物アレルギー症状 食物アレルギーの診断 卵アレルギー、牛乳アレルギー、そばアレルギー、ピーナツアレルギー、魚アレルギー 口腔アレルギー 食品のアレルギー表示 アレルギー検査 食物制限</p>	

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート調査

出席者 53人 アンケート回収数：46枚(回収率86.8%)

研修会名	地域保健医療連携支援研修 (乳幼児健診で相談を受けたときに 乳幼児のアレルギー疾患)					
研修者の職種	保健師 39人 看護師 1人 栄養士 3人 その他 3人					
研修者の年齢分布	20歳代：18人、30歳代：14人、40歳代：5人、50歳代：2人 不明7人 計 46人					
研修者の性別	男性：1人 女性：44人 不明 1人					
アンケート質問項目		1 よい	2	3	4	5 わるい 未記入
	1. プログラムはどうか	30(65.2%)	15(32.6)	1(2.2)	0	0
	2. アトピー性皮膚炎に関する理解が深まったか	28(60.9)	18(39.1)	0	0	0
	3. アトピー性皮膚炎を持つ児・保護者への保健指導に役立ちそうか	18(39.1)	27(58.7)	1(2.2)	0	0
	4. さらに、アトピー性皮膚炎について学んでみたいと思ったか 1) はい(何を) 5) ない	15(32.6)				13(28.3) 18(39.1)
	5. 食物アレルギーについて、理解が深まったか	34(73.9)	11(23.9)	0	0	0 1(2.2)
	6. 食物アレルギーを持つ児・保護者への保健指導に活かそうか	27(60)	15(30)	3(10)	1(2.2)	0
	7. さらに、食物アレルギーについて学んでみたいと思ったか 1) はい(何を) 5) ない	18(39.1)				12(26.1) 16(34.8)
	8. 保健指導で困ったこと、疑問に思ったことを本日の研修で解決することが出来たか	20(43.5)	18(39.1)	6(13)	1(2.2)	0 1(2.2)
	9. 地域保健医療連携支援研修で取り入れて欲しい内容は 1 ある 5 ない	14(30.4)				13(28.3) 19(41.3)
10. 平日の開催であったがどうか 1 平日でよい 3 土曜日がよい 5 どちらでもよい	30(65.2)		3(6.5)		6(13) 7(15.2)	
その他 感想						
Q3. アトピー性皮膚炎を持つ児・保護者への保健指導に役立ちそうか? 治療の大切さを伝えるとき、根拠があるのでうまく伝えられそう						

Q4. さらに、アトピー性皮膚炎について学んでみたいこと

季節によるケアのポイント、プロトピック、子どもと大人の皮膚の違い、子どものアトピーと食物アレルギーとの関係、今後アトピーの治療はどうか、ステロイドを減らすタイミング、薬物治療について、管内の病院の治療方針を知りたくなった、日本皮膚科学会患者相談システム、アレルギー全般についてもう一度、薬剤の使い方、治療法と経過、乳児期には症状がなく3歳前後でアレルギー症状が出現することについて、

Q7. さらに、食物アレルギーについて学んでみたいこと

調理方法（2人）、除去食の解除方法、口腔アレルギー症候群、症状と検査の必要性、食物アレルギーの治療の今後、経口負荷試験、除去食（3人）、アレルギー検査、代替食品、全体的に（2人）、事例

Q9. 地域保健医療連携支援研修で取り入れて欲しい内容

自閉症、ADHD（2人）、PDD、ダウン症、精神疾患を持つ親子の育児支援、障害のある子と親へのかかわり方、疾患やアレルギーがある子の予防接種、思春期、整形外科、低身長、発達全般、さまざまな小児疾患の医療、テーマは繰り返しても詳しい情報を盛り込んでほしい、精神疾患を持つ人の地域での対応、

自由記載

勉強になった

森下先生に会えた子は幸せだと思った。親の気持ちに付き合っただけでなく納得いくよう説明してくれる医師や不安を上手に伝えられる親が増えるといい。

わかりやすかったし、自分の勉強不足を痛感した。

食物アレルギーについて腸と皮膚の免疫関係を学びたい。

基礎的な知識や具体的な保健指導の内容でわかりやすかった。

いろいろな疾患についてこのような研修機会があるとよい。

地域の病院では検査などが十分にできず残念。

最先端の医療現場の事情はわかったが、地域で活用できる情報がほしかった。

近隣の病院でのアレルギー医療の状態が把握できないし、専門的なところが少ない現状。

地域保健医療連携支援研修 研修会実績と評価(1)

実施日時	平成15年8月7日(木)午後1時30分から午後4時15分		
講師	当センター 小児外科医師 渡邊芳夫 当センター 形成外科医師 鳥山和宏		
講演主題	乳幼児健診で相談を受けたときに 1. 日常的な小児外科疾患 (臍ヘルニア、鼠径ヘルニア、停留睾丸など) 2. 子どもの形成外科(母斑、血管腫など)		
参加者数	(職種)	保健機関:保健師	64名 看護師 1名
講演会	講演内容の要旨		
	<p>1. 日常的な小児外科疾患</p> <p>鼠径ヘルニア 鼠径ヘルニアの発生機序、鼠径ヘルニアの臨床、鼠径ヘルニア治療の歴史、当センターの治療方針</p> <p>陰嚢水腫 鼠径ヘルニアと陰嚢水腫、陰嚢水腫の経過、当センターの治療方針</p> <p>臍ヘルニア 自然治癒例、不完全治癒例、手術例、絆創膏固定による治療、臍肉芽腫、停留睾丸</p> <p>移動性睾丸の診断基準、移動性睾丸の経時的変化、停留睾丸の程度</p> <p>包茎 陰茎の年次的変化、包茎の診断治療</p> <p>肛門関連疾患 便秘</p> <p>2. 子どもの形成外科</p> <p>あざのレーザー治療 色素レーザーとQスイッチレーザーの適応疾患 色素レーザーとQスイッチレーザーはなぜ効くか レーザー治療の時期・回数 全身麻酔下のレーザー治療 単純性血管腫、いちご状血管腫、扁平母斑、 レーザー治療の保険点数</p>		

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート調査

出席者 65人 アンケート回収数：52枚(回収率80.0%)

研修会名	地域保健医療連携支援研修(日常的な小児外科疾患・子どもの形成外科)					
研修者の職種	保健師 45人 不明 7人					
研修者の年齢分布	20歳代：19人、30歳代：14人、40歳代：4人、50歳代：3人 60歳代：1人、不明 11人 計 52人					
研修者の性別	男性： 人 女性： 人					
アンケート質問項目		1よい	2	3	4	5わるい 未記入
	1.プログラムはどうか	37(71.2%)	11(21.2)	4(7.7)	0	0
	2.小児外科疾患について理解が深まったか	39(75.0)	13(25.0)	0	0	0
	3.小児外科疾患をもつ児・保護者への保健指導に活かさせそうか	35(67.3)	13(25.0)	4(7.7)	0	0
	4.さらに小児外科疾患について学んでみたいと思ったか 1はい(何を) 5ない	20(38.5)				10(19.2)22(42.3)
	5.子どもの形成外科について理解が深まったか	34(65.4)	18(34.6)	0	0	0
	6.子どもの形成外科について児・保護者への保健指導に活かさせそうか	32(61.5)	16(30.8)	4(7.7)	0	0
	7.さらに子どもの形成外科について学んでみたいと思ったか 1はい(何を) 5ない	13(25.0)				11(21.2)
	8.保健指導で困ったこと・疑問に思ったことを研修で解決できたか	29(55.8)	19(36.5)	4(7.7)	0	0
	9.地域保健医療連携支援研修で取り入れて欲しい内容は 1ある(何を) 5ない	19(36.5)				9(17.3)
10.平日の開催であったがどうか 1平日でよい 3土曜日がよい 5どちらでもよい	33(78.6)		2(4.8)		7(16.7)	
<p>その他 感想</p> <p>保健分野で働いているので医療分野の話は役立った。</p> <p>事前に質問事項を聞いた上の講義なので聞きたいことが聞けたし健診に反映しやすい。 2人</p> <p>公共交通機関利用のため終了時間に配慮してほしい。</p>						

小児外科の講義はわかりやすく保健指導に生かせると思う。

疑問が解けすっきりした。

またこのような機会がほしい。 2人

具体的でわかりやすかった。 4人

先生に話を聞くと具体的にわかる。

いつもためになる話を聞けてありがたい。 3人

最新の医療について聞くことができた。

日ごろかかわることが多い疾患で勉強になった。

質問しやすい雰囲気よかった。

症例の写真はとても説得力があった。

小児外科はどこを紹介すればいいか迷う。広く医師に知識を普及させてほしい。

小児外科についてもう少し時間があるとよかった。

疾患についての研修機会が少ないので勉強になった。

Q4 小児の外科的疾患について学んでみたいこと

鎖肛の治療法と経過、先天性股関節脱臼（2人）、心疾患、外傷、口腔外科、神経発達、斜頸の手術適応、健診でよくある疾患、小児疾患一般、

Q7 形成外科についてさらに学びたいこと

多指症（4人）、小児形成外科が扱う疾患と治療（2人）、口唇口蓋裂（2人）、四肢欠損（2人）

実施日時	平成15年10月16日(木)午後2時から午後5時
講師	当センター 腎臓科医師 上村治 当センター 整形外科医師 服部義
講演主題	乳幼児健診等で相談を受けたときに 1 小児腎疾患の治療・管理 2 乳幼児の整形外科疾患 (先天性股関節脱臼、扁平足、内反足、O脚など)
参加者数	保健師 76名
講演会	<p>講演内容の要旨</p> <p>1 小児腎疾患の治療・管理</p> <p>小児の血清クレアチニンの正常値 6ヶ月児で0.2 17歳で0.8になる。身長に比例して値が大きくなる</p> <p>腎疾患と安静 腎疾患では安静が一般療法と日本の教科書には記載されているが、そうではないと考える。その理由は1「安静・運動制限」治療の腎疾患に対する臨床的有効性は証明されていない、2「安静・運動制限」治療の患児に及ぼす精神的・肉体的副作用が大きい</p> <p>昼間の遺尿 5歳以上のおもらしが病的 膀胱機能の発達 2-3歳になると大脳皮質でコントロールでき始め、4歳頃に完成 トイレットトレーニングをあせらない</p> <p>子どもに多い腎臓病 ネフローゼ症候群、慢性糸球体腎炎 検尿 尿蛋白や血尿から考えられること</p> <p>2 乳幼児の整形外科疾患</p> <p>先天性股関節脱臼 生下時の股関節は脱臼準備状態 生後の環境要因で股関節脱臼が発生する。 発生率は1%。 見逃し例が増えている 乳児健診でリスクファクターをチェック 6ヶ月児までは外来治療が可能だが、7ヶ月児以降は長期入院治療を要す</p> <p>O脚・X脚 子どもの下肢の形は成長に伴い変化 生下時O脚傾向、3、4歳X脚傾向、 5~7歳でまっすぐ 注意すべきO脚 3横指より大、悪化する、下腿の内捻、左右差など 内反足・扁平足</p>

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート調査

出席者 76人 アンケート回収数：65枚（回収率85.5%）

研修会名	地域保健医療連携支援研修（1小児腎疾患 2乳幼児の整形外科疾患）					
研修者の職種	保健師 65名					
研修者の年齢分布	20歳代：28人、30歳代：18人、40歳代：7人、不明12人 計65人					
研修者の性別	男性：0人 女性：65人					
アンケート質問項目		1よい	2	3	4	5わるい 未記入
	1.プログラムはどうか	43(66.1%) 6(9.2)	13(20)	3(4.6)	0	0
	2.日常的な小児腎疾患について理解が深まったか	35(53.8)	23(35.4)	5(7.7)	2(3.1)	0
	3.日常的な小児腎疾患児・保護者への保健指導に生かせそうか	30(46.2)	29(44.6)	5(7.7)	1(1.5)	0
	4.さらに腎疾患について学びたいか 1はい 5ない	20(30.8) 3(4.6)				42(64.6)
	5.子どもの整形外科疾患について理解が深まったか	53(81.5)	12(18.5)	0	0	0
	6.整形外科疾患の児や保護者への保健指導に生かせそうか	49(75.4)	15(23.1)	1(1.5)	0	0
	7.さらに整形外科について学びみたいか 1はい 5ない	16(24.6) 4(6.2)				45(69.2)
	8.困ったこと疑問に思ったことをこの研修で解決できたか	37(56.9)	22(33.8)	6(9.2)	0	0
	9.地域保健医療連携支援研修で取り入れて欲しい内容があるか 1ある 5ない	26(40) 8(12.3)				31(47.7)
10.平日の開催であったがどうか 1平日でよい 3土曜日がよい 5どちらでもよい	60(92.3)		1(1.5)		4(6.2)	
<p>Q4. さらに日常的な腎疾患について学びたいと思ったことは？ 小慢の腎疾患2人、尿蛋白、小児の腎検査値の考え方、尿検査の有所見について、3歳児健診での尿再検の対応について、安静以外の日常生活指導、ネフローゼ症候群、慢性腎炎（人工透析）、地域でのサポート方法</p> <p>Q7. さらに子どもの整形外科について学びたいと思ったことは？ 開排制限の見方（手技）5人、先天性股関節脱臼、健診時のチェックポイント、地域でのサポート</p>						

方法、未定額、

Q9 . 今後、地域保健医療連携支援研修に取り入れて欲しい内容は？

自閉症 7 人、アスペルガー 3 人、広汎性発達障害 3 人、ADHD 2 人、皮膚疾患やスキントラブル 2 人、発達障害、聴覚（3 歳児健診スクリーニング）、内分泌疾患（肥満、低身長、低体重など）、体重増加不良、健診でよく見られる疾患、周産期医療、乳幼児用具（おしゃぶりや歩行器など）と発達、けがや病気と病院受診、

感想

【腎】

腎疾患の安静やクレアチニンについてなど地域の医師に話してほしい。
トイレトレーニング指導時、母子関係も留意するようにしている。
排尿時の生理など詳しく理解できた。

【整形外科】

装具の装着時期や治療など理解することでよりよいアドバイスができそう。
O 脚、X 脚、股関節脱臼について理解が深まった。

【その他】

はじまり時間が早いほうがよい。
わかりやすく、すぐ実践できる内容だった。
わからないと文献で調べるが、医師の話を聞けてよかった。
保健師歴 4 年だが、1, 2 年目で受講したかった。
ためになる研修だった。

地域保健医療連携支援研修 研修会実績と評価(1)

実施日時	平成15年12月9日(火) 12月19日(金) 平成16年1月20日(火) 1月23日(金) 2月3日(火) 2月20日(金)の6回 午後1時から午後4時30分
講師	当センター視能訓練士 川瀬芳克、山口直子、天野みゆき
講演主題	乳幼児の視覚検診について 目的・方法とその効果
参加者数	(職種) 保健機関: 保健師 45名
講演会	<p>講演内容の要旨</p> <p>視覚の発達 視力は網膜の中心窩に明瞭な像を結ぶことで発達する 視力と立体視は生後発達し、5,6歳でほぼ完成する</p> <p>屈折の種類と見え方 いろいろなレンズを使って遠視・近視・乱視の見え方を体験</p> <p>弱視の種類と治療 lazy eye --- 斜視や屈折異常などで視機能の発達が障害 早期発見と治療で正常視力を獲得できる Low vision --- 疾患や怪我などにより視力を障害し、回復困難 保有視覚を活用する</p> <p>視覚検診の効果 3歳児健診時に弱視 lazy eye だった児 204人を治療した結果 0.8以上の視力を獲得した子どもは185人(91%)</p> <p>視覚検診の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児健診における視覚検診は、ランドルト環よる方法と絵を使うものがあるが、前者のほうが検査精度は高い ・ランドルト環による検査が可能な子どもは3歳0ヶ月では73.3%、3歳6ヶ月になると95%になる ・視力は3歳0ヶ月で0.55、3歳6ヶ月では0.82に伸びる <p>当センター眼科検査室の見学・いろいろな視覚検査機具の見学・ランドルト環よる視力検査の体験学習</p>

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート調査

出席者 45人 アンケート回収数：45枚(回収率100%)

研修会名	地域保健医療連携支援研修(乳幼児の視覚検診について)					
研修者の職種	保健師 45人					
研修者の年齢分布	20歳代：24人、30歳代：13人、40歳代：3人、50歳代：0人 60歳代：0人、不明5人 計 45人					
研修者の性別	男性：0人 女性：45人					
アンケート質問項目		1よい	2	3	4	5わるい 未記入
	1. 本日の研修全体のプログラムはいかがでしたか?	37(82.2%)	7(15.6)	1(2.2)	0	0
	2. 視覚に関する理解が深まりましたか?	36(80)	8(17.8)	1(2.2)	0	0
	3. 乳幼児健診や視覚に問題がある児・保護者への保健指導に活かそうか?	32(71.1)	11(24.4)	2(4.4)	0	0
	4. 眼科外来の見学はよかったですか?	36(80)	4(8.9)	2(4.4)	0	0 3(6.7)
	5. 実験は視覚について理解する上でよかったですか?	40(88.9)	3(6.7)	1(2.2)	0	0 1(2.2)
	6. 実習があるため参加人数を8人に制限したことはどうでしたか?	39(86.7)	3(6.7)	2(4.4)	1(2.2)	0
	7. さらに、視覚について学んでみたいと思ったことは? 1ある(何を) 5ない	22(48.9)				23(51.1)
	8. 保健指導で困ったこと、疑問に思ったことなどについて、本日の研修で解決することができたか?	21(46.7)	20(44.4)	3(6.7)	1(2.2)	0
	9. 地域保健医療連携支援研修で取り入れて欲しい内容は 1ある(何を) 5ない	24(53.3)				21(46.7)
10. 平日の開催であったがどうか 1平日でよい 3土曜日がよい 5どちらでもよい	39(86.7)		0		6(13.3)	
その他 感想	<p>視覚の検診の実習など、すぐに活かせる研修だった。 とても参考になった。少人数なので質問しやすかった。3 目についての講義はほとんど聞いたことがなかったので、とても勉強になったが、基礎知識がなく、1回だけでは十分理解できなかった。</p>					

感想 その他

視力検査の実習をしてみて、今まで行っていた方法が不正確だったことがわかった。

細かな質問にも詳しく答えてもらえてよかった。2

1日でゆっくりのほうがよい。

実習はわかりやすく勉強になった。2

詳しく説明してもらいよかった。

受講できなかった同僚がいたので、またの機会を希望。

幼児の視力検査のポイントがわかった。

実体験をいろいろでき、指導のとき参考になる。

色覚についても教えてもらい参考になった。

視力検査方法について詳しく講義してもらいわかりやすかった。2

視力検査の仕方が特に勉強になった。

親にわかりやすく説明し、受診勧奨できるとよいと思う。

今まで要精検に送るときの説明がよくできなかったが、これからきちんとできるようにまとめたい。

聞きたいことにきちんと答えてもらえて満足。

眼科に紹介した子どもがどのように検査されるか大まかにわかった。

Q7. さらに視覚について学んでみたいと思ったことは？

先天性緑内障、白内障、技術的なことや検査方法2、病理・治療、斜視、幼児の視覚検査の実際を見学したい、色覚4、偽内斜視などの判断の仕方、子どもをひきつける検査テクニック、病態別にもう少し詳しく、疾病や受診を勧める時期・伝えることなど、近視の進行、視覚障害、治療の予後、治療する限界の年齢、スクリーニングの限界とフォロー

Q9. 今後、地域保健医療連携支援研修に取り入れて欲しい内容は？

聴覚（5人）、虐待（3人）、自閉症（3人）、発達の見方（2人）、発達障害、言語訓練、アレルギー、人員不足のなかでの保健師の動き、障害をもつ親への精神的な支援方法、自閉症・アスペルガー症候群・広汎性発達障害を持つ児への親の対応方法、精神発達、先天性の障害、てんかん、脳性麻痺、よくある小児疾患、聴覚や整形外科など健診時に問題になる疾患を今回のように少人数で講義と実技